

# 若者のためのミニストリー

## 目次

はじめに

### 第1章 若者の発達と特徴

身体的変化

自己認識の発達

アイデンティティの危機と確立

自分さがし

反抗

善悪の基準

友人関係

現代の友人関係・対人関係の特徴

異性関係

現代の若者の特徴

10代の女子の特徴

10代の男子の特徴

フリーター

ニート

### 第2章 ユースミニストリー

ユースミニストリーの基礎

1. 神学的存在理由

2. 発達的理解

3. 社会・文化的理解

若者に関する聖書の言葉

教会学校教師として

クリスチャンホームの子どもたちとそうでない子どもたちへの対処

十代の信仰告白が含んでいる可能性のある要素

親や教師との関係

親や教師として覚悟すること

したらよいこと

してはいけないこと

肯定・共感

無条件で受け入れる

若者のよい行いをほめる

時間をとる

責任感を養う

責任の移譲

愛と性

失望

失望の原因

失望のらせん階段

若者の失望への対処

さまざまなアイデア

文献

著者紹介

## はじめに

「いまどきの若者は享樂的だ。マナーも悪いし、目上の者を軽んじる。年長者にたいして不敬な態度をとるし、鍛練ではなくおしゃべりが大好きだ。いまでは年長者が部屋に入ってきてても起立する者などいない。親に口答えはするし、客を無視してしゃべっている。食べ物はがつつ食べるし、師にたいして暴君のようにふるまう。」

いったいどこの若者のことでしょうか？これを書いたのは紀元前5世紀のソクラテスです。若者は、いつの時代も変わらないところがあるのです。別の見方をすると、いつの時代も、年上の人たちは若者に対する見方が変わらないとも言えます。

若者には、たえず変わっていく面と、いつの時代にも共通して変わらない面があります。これはどの世代に関しても当てはまることです。このテキストでは、すぐに時代遅れになる流行の解説はしていません。基本的に変わらない若者の特徴を中心に上げています。

ここで取り扱う「若者」は、中学生と高校生、そして高校卒業後22歳くらいまでの人のことです。子どもから大人になっていく過程を通っている人たちです。何をもって大人と判断するのはとてもむずかしいのですが、精神的・経済的自立を一つの指標とします。

この時期の若者が直面しなければならないことはいろいろあります。たとえば、

- ・不安定な自分の感情に対処しなければならない。
- ・性的な強い衝動をコントロールしなければならない。
- ・仲間とのつき合い方を考えなければならない。
- ・タバコ・アルコール・ドラッグなどの誘惑に対処しなければならない。
- ・親との新しい関係をつくっていかなければならない。
- ・学校の勉強をしなければならない。
- ・自分なりの価値観をつくっていかなければならない。
- ・自分の人生計画を考えなければならない。

こういった多くのことに直面しながら、青年期は神様と出会う大切な機会にもなります。また、献身の決意をする若者もいます。大変だけどやりがいのあるのが、ユースミニストリーです。

このテキストは、まだメモのようなものにすぎませんが、若者が自分自身を理解するため、また親や教会学校の先生などが若者を理解するために、少しでも参考になれば幸いです。

## 第1章 若者の発達と特徴

### 身体的変化

第二次性徴の始まりに伴って、思春期に入り、身体的に大人に近づきます。第二次性徴は、身長と体重が急速に増加する量的発達と、男性・女性としての体つきになる質的発達が見られます。都市化の発達、刺激の増加、栄養の改善などにより、第二次性徴の現れは早まる傾向が見られ、「発達加速現象」といわれてきました。しかし、最近では逆に遅くなる傾向も報告されていて、一概に早くなるだけではなさそうです。

男性ホルモン（テストステロン）の影響によって、男の子は強い怒り、攻撃性、性的興味、支配欲求、縄張り意識が強くなる傾向があります。2種類の女性ホルモンであるエストロゲンとプロゲステロンは、月経周期を通して分泌量が変化します。その結果、女の子は気分が変わりやすくなります。運動によって憂うつや不安などが減ることがわかっています。

この時期の若者の脳は、成長の過程にあります。思春期に、恐れや怒りなどの生の感情を生み出す大脳辺縁系が急速に発達します。一方、大脳辺縁系で生じた衝動を抑制し、道徳的判断をする前頭前野は20代前半までかかってゆっくりと発達していきます。このような発達のアンバランスがあるために、若者は感情の抑制や健全な決断がむずかしくなりがちです。

思春期にアルコールやタバコ、ドラッグを使用すると、発達段階にある脳が損傷を受け、中毒になりやすくなります。家庭でも大目に見てはいけません。

### 自己認識の発達

幼児期は、自分の名前や身体的特徴などの物理的な面を中心にして自分を認識します。児童期になると、自分の得意なことなどの活動を中心にして自分を認識します。中学・高校時代は、対人関係などの社会的関係によって認識し、高校卒業以上になると自分の性格や信念などの心理的側面によって自己を認識するようになっていきます。

親から独立した一人の人間として扱ってほしいという気持ちが高まることを、「心理的離乳」と言います。親や大人に反抗したり、自分なりの価値観を持つようになります。自己意識（自分自身に対する意識）が高まり、内面的に考えるようになります。

青年期の自己意識の高まりは、自意識過剰になり、自分の嫌な面が目について自己嫌悪に陥りやすい傾向があります。自分の外見にこだわるようになり、他の人にどう見られているかに敏感になります。

### アイデンティティの危機と確立

若者が意味のある明確な役割を与えられている社会では、若者は自分が誰であるかという明確な感覚を持ちやすく、アイデンティティの危機はあまり見られません。すぐれた運動選手、音楽家、研究者なども、明確なアイデンティティの感覚を持っています。

しかし、青年期が長く、将来の選択肢が多い先進国では、アイデンティティの危機がよくみられます。現代の日本では、多様な経験をすることに乏しく、学業成績や学校歴などの一元的な価

価値観だけで評価されることが多いため、自分が何者であるかをとらえにくくなっています。さらに、自己内省力が育っていない若者が増えているとも言われます。

若者のアイデンティティを構成する要素として、3つのことが考えられています。

- ①自立・自信：主体的で自分の信念に基づいた生き方ができていると感じられること
- ②連帯：社会とつながっている感覚、連帯感
- ③信頼・時間的展望：自分の人生に意味を感じ、人生への肯定感を持つこと

これら3つの要素が統合されるほど、アイデンティティが確立していき、自分の人生に対して充実感や満足感を感じることができます。

## 自分さがし

就職活動をする時に、「自己分析」をすることが一般的になっています。しかし、社会に出た経験のない若者が、自分の内側ばかりを見ていても自分というものは容易にはわかりません。さまざまな体験や人間関係を経験しないで、自分とは何かを知ることはむずかしいことです。自己は、神との関係、対人関係、自分自身との関係、被造物との関係の中で理解されるものです。いろんな経験を通して、自分が本当にやりたいこと、自分の使命も見えてきます。

## 反抗

若者の反抗は親の態度によってかなり変わってきます。放任し過ぎたり、厳しすぎる親のもとでは、若者はより反抗する傾向が見られます。若者は家族との関係を維持したまま、自分独自の態度・信念・価値観を築いていきます。温かな人間関係を維持したまま、自立を認めて行くことが大切です。

大変厳格な家庭にいる若者は、直接的でない形の反抗を表すことがあります。たとえば、摂食障害、抑うつ、ひきこもり、ネットへの逃避などです。親にコントロールされない自分だけの世界を持つとします。こういったことは、親から独立したい気持ちの表れであることがよくあります。

反対に放任や何でも許可してくれる家庭にいる若者は、親が自分たちに何を期待しているのかわからないので、欲求不満を覚えます。彼らは何らかの秩序を探し求めます。親が明確な指針を与えられない場合、子どもたちは徐々に過激な行動をとって、何がルールなのかを発見しようとします。若者はたとえ家庭のルールに同意できなくても、そのルールを知る必要を感じているのです。何でも許容されることは、自分たちに関心がないこととしてとらえます。そして何とか親の関心を引こうとして、さらに反抗します。

親は子どもが守るべきルールと期待することを明確にし、外出する時・帰宅時を知っていることが、子どもたちにより影響を及ぼすことがわかっています。両親は一致したしつけと基準を持っている必要がありますが、時には子どもを別々にしつけるとよいようです。

家庭内の親子の対立は、思春期の子どもと中年期の親との間がもっとも激しくなりがちです。子どもたちが思春期のむずかしい時期にあるだけでなく、親も中年期の危機を通過しているのです。

無視や虐待、恐怖の経験を繰り返し受けている子どもは、衝動的な攻撃性があり、反社会的な攻撃をする傾向があります。

## 善悪の基準

かつては善悪の基準は社会にあると考えられていました。誰もが社会の基準に合うか合わないかを考えました。ところが、最近では、善悪の基準は自分自身の内にあると考える若者が増えてきました。「いい感じ」が一番の基準です。「むかつく」「鳥肌が立つ」「泣ける」といった身体感覚によって、物事の判断をする傾向があります。

若者の多くは、この世界に存在している理由を見いだせないで、生きているリアリティーを感じられないでいます。そのため、死ぬことにもあまり抵抗がない若者が多くいます。

## 友人関係

中学・高校時代は、友だちへの同調が最も高くなります。その後は、アイデンティティが確立していき、社会的役割や地位が明確になっていくに従って、友だちに認めてもらいたいという欲求が少なくなります。

友人を選ぶ理由は、年齢が低い場合は物理的な近さや自分にとって得になるなどの理由が多く、年齢が高くなるにつれて、相手の性格などの内面的な理由を挙げる人がふえます。

友人関係には、3つの役割があります。

- ①安定化機能：緊張、不安、孤独などの感情を和らげる。
- ②社会的スキルの学習機能：人との関わり方、適切なふるまい方を学ぶ。
- ③モデル機能：自分をふり返り、自分自身のイメージを形成する際の模範（モデル）となる。

## 現代の友人関係・対人関係の特徴

現代の若者は、マサツ回避の世代と呼ばれます。本当はもっと深く関わりたいという思いはありますが、互いに傷つけ合わないよう気をつけて、表面的な親しさを演じる傾向が見られます。よい関係を求めつつも、関係が深まることを避け、いっしょにいて安心感を得ています。明るくふるまい、深刻な話題を避けようとします。劣等感を感じている人ほど、他人の視線を気にして、周囲に同調しやすい傾向があります。

しかし、すべての若者にこのような傾向があるわけではありません。若者は大きく以下の3つのグループに分けることができます。人と距離をおくタイプ、楽しく群れた関わりをするタイプ、少数の友だちと深い関わりを求めるタイプです。

現代の若者は、狭い仲間の内では関係維持のために多くの努力をしていますが、その外側の人々には無関心な傾向が見られます。地域社会の崩壊により、他人の目を気にすることがなくなったことが大きく影響しているようです。

## 異性関係

青年期は、異性や恋愛への関心が高まります。しかし、最近の傾向として、異性と交際しない若者が増加しています。交際している特定の異性があると答えた中学生は1～2割、高校生は2

～3割です。

男性は恋愛の最初から相手に夢中になり、女性は男性ほどには感情が急上昇しないで、結婚を決める頃に男性と同じ程度に相手に夢中になる傾向が見られます。

また、青年期には、恋愛を通して自分のアイデンティティを確認することがおこなわれます。青年期はアイデンティティを模索中なので、相手の評価が気になり、認めてくれることを要求します。しかし、相手の評価によって左右されるので、自分がわからなくなってしまう不安を感じることがあります。相手に対する関心や愛情よりも、相手の目に自分がどのように映っているかに最大の関心があります。受けることだけを求め、与えることができないために、交際が長続きしない傾向が見られます。

## 現代の若者の特徴

十代はその時代のよい面も悪い面を映し出しつつ、適応して生きています。中村恭子と原田曜平がまとめた『10代のぜんぶ』から、現代の若者の特徴をまとめてみます。

### 10代の女子の特徴

- ・多くの不安を抱えています。就職に対する不安、年金に対する不安、今の生活レベルを維持できるかという不安、日本の将来に対する不安、コミュニケーションが上手くなくてはならないという不安、自分のことがわからないという不安、誰を信じていいのかわからないという不安など。
- ・「夢見る者は馬鹿をみる」 理想は「ほどほどの安定した生活」で、不満や不安を表現しないで初めからあきらめてしまっています。不安は取り除くことができないものとして受け入れ、明るく潔くあきらめています。不安をうまくやり過ごしていくために、職業や家庭に対して安定志向を示します。
- ・「言わない、責めない、争わない」 直接に人とぶつかることを避け、相手の気持ちを害さないように気を配ります。
- ・「近づきゃ不快、離れりゃ不安」 悩むことに臆病で、自分の存在を受け入れてもらえないことを極度に恐れています。

### 10代の男子の特徴

- ・営業マンのように生きる。人に配慮ができる男子に好感を持ち、逆に場の空気が読めない男子を嫌います。広い人的ネットワーク内でうまくやっとうまいと努力しています。優しくカワイイ女の子を好み、「ギャル」やうるさい女の子を嫌います。
- ・家が好き。休日は家にいることを好みます。家ではインターネット、テレビ、ゲーム、寝ている時、ケータイメールのやり取りをしている時が楽しいと答えています。
- ・7割の男の子に模範としたい大人がいません。親への反抗が少なく、父母を信用しています。
- ・日本は悪い状況にあると感じていますが、日本が好きです。
- ・幸せな結婚を望み、お互いを束縛しないで自由に生きたいと希望します。
- ・仕事では、サラリーマンになることを希望せず、専門知識や技術を活かせる職場で働くことを望んでいます。責任ある地位よりも気軽な地位にいることを望みます。資格を取りたいと考えています。

## フリーター

正規雇用の仕事につかないで、アルバイトで生活をつなぐ人のことをフリーターと言います。フリーターには、なんとなくになった人、芸術・職人などの夢を追究しながらやっている人、生活のためにやむを得ずやっている人などがいます。フリーターは、「やりたいこと」への過度のこだわりがありますが、やりたいことの具体的なイメージを持っていない傾向が見られます。

## ニート (NEET : Not in Education, Employment or Training)

ニートとは、学校に行っておらず、仕事もしておらず、職業訓練中でもない人のことです。若年失業者と呼ぶこともできます。ただし、女性の場合は実際はニートであっても、「家事手伝い」に分類されるとニートとみなされません。ニートは自分を過小評価し、社会に居場所を見つけられない傾向があります。



## 第2章 ユースミニストリー

### ユースミニストリーの基礎

ユースミニストリーの活動を形成し、内容を決め、動機を与え、評価の基準になるものとして、以下の3つのことが考えられます。

#### 1. 神学的存在理由

すべての教会の働きには、「ミッションステイトメント」が必要です。ミッションステイトメントは、何のために存在しているのか、何が重要なのか、なぜそれをするのかという質問に答えるものです。これを考えるために参考になる聖書箇所をいくつか挙げておきますので、ご自分の目的を明確にするために参考にしてください。

・大宣教命令 マタイ 28:19-20「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子となさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

・福音を伝える 使徒 20:24「けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。」 ローマ 1:16-17「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。『義人は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです。」

・キリストによる和解の働き II コリント 5:20-21「こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです。」

・信仰共同体を形成する エペソ 4:11-16「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わせられ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」

・主にある成長 コロサイ 1:9-10「こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。また、主になつた歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますよ

うに。」1:28-29「私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。」

・賜物を用いて神に仕える I ペテロ 4:10-11「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。語る人があれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、それにふさわしく奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。栄光と支配が世々限りなくキリストにありますように。アーメン。」

## 2. 発達的理解

若者が発達的にどのような状態にあるのかを理解することが大切です。彼らのニーズを正確に知り、それに応えることができるようにします。若者の発達に関しては、第1章を参考にしてください。

## 3. 社会・文化的理解

若者が生きている世界を理解する必要があります。彼らが世界をどのように経験し、どのように意味を見出しているのか、使っている言葉にはどんな意味があるのかなどを知りましょう。

どうやって若者の世界を知ることができるのでしょうか。一番手軽で確実な方法は、若者と接すること、若者の世界に入ることです。若者の話を聞きましょう。文化人類学者になったつもりで、客観的に分析する視点も忘れてはなりません。ティーンエイジャー向けの雑誌、まんが、ネット小説などを読んでみましょう。著者のアドバイス欄をよく読んでみてください。どんなトピックがよく取り上げられているのでしょうか。若者が好む音楽を聞いたり、テレビ番組、ネットを見てみましょう。作者の価値観、意図を探ってみましょう。この世のメディアはどのような魅力的な入れ物に入れてどんなメッセージを届けているのでしょうか。

若者文化を話題にしましょう。好きな音楽グループ、スポーツ選手、学校のこと、将来の夢、大切にしていることなどについて話しましょう。その時、批判的になると彼らは心を閉ざしてしまいます。彼らの意見がたとえ未熟、不適切と感じても、尊敬を持って聞くなら、彼らも大人の話聞いてくれるようになります。

若者の文化を知ることは、人間関係を築くためにも大切です。ユースミニストリーは、若者との関係づくりが第一です。苦しみと喜びを分かち合い、うそ偽りのない関係を築きましょう。人生を分かち合い、信頼関係の中で神との信頼関係を築くことができるように助けましょう。

また、若者が生きている世界を理解することは、福音の文脈化に必要です。彼らの世界をよく知らなくては、福音を彼らに関係づけて語ることはできません。彼らに最も効果的に届く方法を見つけるのは私たちの責任です。

## 若者に関する聖書の言葉

聖書の中には、若者を特定して書かれている箇所は多くありません。その理由はおそらく、聖書の時代は、子どもの時期の後、すぐに成人して、現代のような青年期がなかったためと考えら

れます。

・箴言 22:6「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。」「その行く道」とは「神の道」ではなく「若者の道」です。つまり、それぞれの子どもが持つ独自性に従って彼らを導くべきであると教えています。それは、彼らを気ままに走らせることではなく、やりたいようにさせておくことでもありません。子どもたちへの指導は、彼らの個性や性格、神に造られた独自性を考慮に入れ、彼らの身体的、精神的な発達に合わせてなされることが大切です。

・エペソ 6:4「父たちよ。あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」「子どもをおこらせる」とは、子どもをいらだたせることです。叱り続けたり小言を言い続けたりすることは避けましょう。

## 教会学校教師として

教会学校の教師は、若者の霊的生活にかかわっている数少ない貴重な存在であることを自覚しましょう。ほとんどの学校の教師は成績しか気にしません。多くの若者は親には本音を出せません。教会や教会学校は、とても貴重な場になりえます。若者は、素のままでもいられる居場所を求めています。自分が受け入れられ、励ましを受けることができる場所に集まります。教会学校の教師は若者とコミュニケーションができ、信頼を得られるようにしましょう。一人一人を特別な人として接し、その後でグループのまとまりづくりにとりかかるとよいでしょう。

①自分のグループに関しては自分がエキスパートです。そのグループのことは、あなたしか知らないことがたくさんあります。

②積極的に新しいことにチャレンジしましょう。たとえば、新聞記事、音楽を用いたり、人気のあるトレンド、テレビのクイズ番組などを参考にしてみましょう。うまくいなくても気にする必要はありません。

③メンバーが失敗することを認めましょう。メンバーの危機的な時(たとえばいじめ、妊娠など)、愛を持って受け入れてあげることが必要です。放蕩息子のように出て行って、帰って来た場合、「だから、言ったでしょ」という態度をとらないようにしましょう。

④正直でオープンで弱さを認めましょう。そのほうが信頼されます。

⑤教師の霊性がメンバーに影響します。自分と神様との関係を大切にしましょう。

## クリスチャンホームの子どもたちとそうでない子どもたちへの対処

さまざまなやり方が考えられます。

①クリスチャンホームの子どもには、別のさらに進んだプログラムを提供する。弟子訓練とかリーダーシップトレーニング

②クリスチャンホームの子どもが教える機会をつくる

③それぞれの子を混ぜてスモールグループに分ける

④お互いの経験から学び合えるようにする

## 十代の信仰告白が含んでいる可能性のある要素

- ①自分が気に入っていて、尊敬している人を喜ばせたい。
- ②グループや友達の行動に従っている。
- ③アイデンティティの模索に対する答えを求めている。
- ④自分が属することのできる新しい「群れ」を探している。
- ⑤聖霊が悔い改めと信仰に導いてくださった。  
⑤がもっとも望ましいのですが、①～④の可能性も考えてみる必要があります。

## 親や教師との関係

- ・思春期の若者が自分探しのために、親をしばらく寄せ付けないことがあります。しかし、心の底では目をかけてもらいたがっています。
- ・暴力をふるったり、残酷なことをしたり、極端に無礼な態度をとるなどといった問題が出て来た場合は、早めに軌道修正したほうがよいでしょう。
- ・親子間の葛藤は、若者の自律欲求に対して親が適切に対処できない場合に生じやすくなります。

## 親や教師として覚悟すること

- ・子どもが無愛想になっても驚かない。
- ・若者はたまに愚かで危険なことをする。
- ・怒りが爆発することがある。
- ・気分が変わりやすい。
- ・他人の感情を読むのが得意ではない。
- ・親の意見や価値観に反対する。これは子どもたちが自分で考えるようになった証拠です。

## したらよいこと

- ・何があっても愛していることを伝える。
- ・自分が思春期だった頃のことを思い出す。
- ・子どもが通う学校行事や保護者面談に参加して、先生や保護者たちと話をする。
- ・子どもの友達やその親と知り合いになる。
- ・思春期の子どもの発達について学ぶ。
- ・忍耐と寛容をもって見守る。
- ・子どもの気持ちを受けとめる。共感する。
- ・自分の子どもがどこにいて、何をしているかを知っておく。
- ・家族でいっしょに過ごす時間をつくる。
- ・子どもに責任をもって家事を分担してもらおう。
- ・親以外の信頼できる大人に関わってもらおう。
- ・肯定的な面を見つけよう。
- ・親も自分の非を認めて謝る。それがよい手本になる。
- ・話すよりも聞くことに2倍のエネルギーを注ぐ。
- ・ユーモア感覚を大切にする。

- ・答えがひとことで終わらない質問をしよう。「今日は学校楽しかった？」と尋ねるよりも、「今日学校でどんなことがあった？」と尋ねるほうが、会話が続く。
- ・1度に1つの話題を取り上げる。
- ・自分の気持ちをはっきり伝えて、誤解を減らす。
- ・親がよいコミュニケーションの見本を示す。

### してはいけないこと

- ・細かいことをいちいちうるさく言わない。
- ・子どもがどなっても、親はどなりかえさない。
- ・子どもがどなる、脅す、暴力などによって、好き勝手にさせてはならない。それを許すと悪循環にはまる。
- ・子どもの年齢が上がるにつれて、ルールをゆるくしてよいが、完全に自由にしてはいけない。たとえば、門限を遅くしていくのはよいが、完全に門限をなくすことはしない。
- ・家族で話し合っただけでルールを決め、ルールを守らなかった場合のペナルティも決めておいて、実行することが大切。
- ・うつ、アルコール、ドラッグ、摂食障害、暴力といった深刻な問題に発展する可能性のあることを見過ごしにしない。
- ・異性との交際、性について普段から気軽に話す。
- ・上から一方的にお説教せず、会話で話す。
- ・あまり期待しすぎてはいけない。完璧を望んではいけない。
- ・否定的な面ばかり見ない。
- ・「みんな～だ」「いつも～だ」という一般化を避ける。
- ・もめごとを未解決のままにしない。

### 肯定・共感 (ジョシュ・マクドウェル『断絶世代とつながるために』より)

若者は「私のことをわかってくれない」という言葉をよく口にします。この言葉は、共感されていないと感じていることを表しています。若者とつながるためには、共感すること、彼らの感情を肯定することが大切です。「肯定」とは、「価値を確認する、承認する」ことです。若者の感情を肯定すると、彼らの中に自分は信頼されているという感覚が生じます。一人の人格として認められたと感じます。人として価値ある存在と感ずることが出来ます。

ローマ 12:15「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」若者が失望したり、傷ついている時は、そういう状態の私たちに神がしてくださるように応答するとよいでしょう。私たちがどんなに悲しんでいようと、どんな失敗をしようとも、神が私を愛してくださっていることを知ると慰められます。よきサマリヤ人も、強盗に襲われた人の失敗を指摘したり、注意したりすることなく、その人を助けました。どういう理由でその傷を受けたかに関係なく、傷ついている人に手をさしのべ、傷をいやしてあげましょう。

神は慰めてくださいます。Ⅱコリント 1:3-4「私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どの

ような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。」

人は誰かが共に心を痛めたり、悲しんだりしてくれていると感じる時に、慰めを受けます。その人の立場に立って考えよ、その人が感じていることを感じ取るように努めましょう。そして、それに従って応答しましょう。

結果としての行動を取り上げる前に、まず若者の感情を肯定しましょう。感情を肯定することは、彼らの話を聴くことから始まります。ヤコブ 1:19b 「聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい。」心をこめて、彼らのしたことや感じたことを聞きます。食事をしながらの会話は、より心を開きやすいものです。

ただし、これは好き勝手に感情を発散させてよいということではありません。若者たちがしてしまった悪い行いと、彼らを愛し受け入れていることを伝えることを区別します。神がそのような状況でどのようにおっしゃるかを考えます。私たちが何をするかということと、私たちが誰かということとを神は分けて考えてくださいます。心の傷とその傷の原因とは分けて取り扱わなければなりません。問題をただす前に傷ついた心を慰めなければなりません。その後のふさわしい時に、問題の原因に取り組みましょう。

### 無条件で受け入れる (ジョシュ・マクドウェル『断絶世代とつながるために』より)

ローマ 15:7 「こういうわけですから、キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい。」キリストは私たちが罪人である時に無条件で受け入れてくださいました。たとえ私たちが間違っている、とがめたり批判したりはなさいません。ふさわしい時に、罪を取り扱ってくださいます。

ほとんどの大人は、若者を条件つきで受け入れています。規則に従い、問題を起こさず、大人が期待していることをしているかぎりには受け入れます。条件つきの受容は、行いに焦点を合わせています。行いがある基準に達しなかった時は、受容されず、拒絶されたように感じます。この拒絶感は、人としての価値がない、大切な存在でないように感じるようになります。

健全な自己認識は、神が見るように自分自身を見ることによって与えられます。それは思い上がることでも、卑下することでもありません。

彼らがいつも受け入れられていると感じられるようにしましょう。何をしたかではなく、誰であるかによって受け入れます。完全に受け入れられている子どもたちは、自分を価値ある人間としてみるができるようになります。

### 若者のよい行いをほめる (ジョシュ・マクドウェル『断絶世代とつながるために』より)

称賛は正しい行いへの動機づけとなります。正しい行いをほめればほめるほど、間違ったことをした時に、批判したり厳しくしつれたりする必要がなくなります。間違った行いを見つけてしるよりも、よいことをしているのを見つけてほめることに力を入れることが大切です。このことは、あなたが子どもたちのどこを見ているかを伝えます。

彼らがその存在を受け入れられていると確信していなければ、大人の称賛と評価は彼らを操作する道具になってしまいます。受容が伴わない評価は、条件つきの愛を教えることとなります。

## 時間をとる (ジョシュ・マクドウェル『断絶世代とつながるために』より)

若者があなたを必要とする時には、いつもそばにいてあげることによって、彼らが大切な存在であることを伝えましょう。彼らと関わらないのなら、彼らよりも大切なものがあることを伝えることとなります。彼らは寂しさや断ち切られた思いを味わいます。彼らを大切に思い、私たちとつながっていると感じてほしいなら、彼らのために時間を割かなければなりません。質も量もともに大切です。子どもたちの記憶に残るのは、大きな行事ではありません。小さな瞬間の記憶が子どもたちを作り上げていきます。若者たちがもっとも愛を感じるのは、あなたが彼らを認めたり、受け入れたり、感謝したり、愛情を表したりする時なのです。「今、私たちが子どもたちと一緒に過ごすなら、後に彼らが私たちと共に時間を過ごしてくれるでしょう。」

## 責任感を養う (ジョシュ・マクドウェル『断絶世代とつながるために』より)

ルール－関係＝反抗

ルール＋関係＝積極的な応答

若者自身よりもルールを重んじようとするなら、若者はルールを無視します。逆に、ルールよりも若者自身を大切にするなら（ルールを守る、守らないに関わらず、彼らを愛するなら）彼らはルールに喜んで従うようになります。

関係－ルール＝無責任

若者とつながることと、愛情のある制限や境界線とのバランスを取らないと、無責任になります。愛情をもって若者たちに境界線を課すことは、彼らに責任感を与えます。若者たちが安全に確実に行動するための枠を与えます。彼らには周囲の大人たちの愛ある権威が必要です。責任ある正しい選択をするための基盤になります。境界線がないと、混乱が生じます。真理には境界線があります。

若者が何か悪いことをする時には、注目してもらいたがっているのです。二つの訓練方法：実際にやらせてみてその結果を経験させます。もう一つは、あらかじめ約束しておいて、子どもが自分の責任を果たさなかったらどうするかを取り決めておきます。

親は若者に大人としての自制心（責任感）を養うための枠組みと支援を提供しなければなりません。社会での生活ができるように、家庭の中で自分の行動には結果が伴うことを理解させます。具体的には、子どもを交えて、行動に関して明確なルールを決めます。たとえば、門限、ゲーム時間、携帯料金など。ルールを破った場合の適度なペナルティも決めます。違反した場合は、必ずペナルティを実行します。

## 責任の移譲

親は徐々に子どもたちに責任を譲り渡していく必要があります。若者が少々失敗をすることを覚悟しなければなりません。教会のユースミニストリーは、若者を楽しませ、忙しくさせることばかり考えるのではなく、責任を与えて行くことも考えるべきです。若者は自分たちに与えられた賜物が肯定され、他の人に仕えて行くビジョンが励まされることによって、成長していきます。無条件の愛がある家庭や教会で育つ若者は、恵みの中で、失敗する余地があり、許されてもう一度トライする機会を与えられます。そうして親と若者との関係が深まり、相互に力づけることが

可能になるのです。

## 愛と性 (ジョシュ・マクドウェル『断絶世代とつながるために』より)

現在の文化は愛と性についてゆがんだ見方をしており、子どもたちに向けて何が本当の愛で、何がそうでないかについて、混乱した信号を送っています。その結果、性欲の激しさと愛情の親密さを混同してしまいます。愛情＝性的関係と間違っているとらえがちです。真の愛は情欲と同じではありません。「愛しているならセックスするはずだ」というのは誤った考えです。愛情への飢えによって、性的関係に至ってしまうこと多くあります。性的な関係によって即席の親密さを手に入れようとします。それは愛の幻想を作り出します。

性的関係は、情緒的な空しさから一時的に解放してくれます。しかし、後に失望、後悔、より深い痛み、恐れ、不安的な状態、挫折、罪の意識、より大きな孤独感がやってきます。結婚前にした性的関係によって、「だまされた」と感じるものがたびたびあり、信頼関係を築く妨げになります。別れるときに、感情的に引き裂かれるような経験になりえます。低いセルフイメージは、結婚前の性的関係の原因にも結果にもなります。婚外の性的関係は、しばしば自信喪失、不安、屈辱、自己嫌悪といった感情を悪化させます。肉体の快楽によって心の空しさを埋めようとして、性に走る若者は、性の追求におぼれてしまうことがあります。しかし、いつまでたっても満たされることはありません。他の誘惑にも負けやすくなります。神との関係を妨げることもつながります。

若者が性的プレッシャーに負けてしまう一番の理由は、親の怠慢による青年期の疎外感です。若者たちは家族関係において愛情が満たされないと、家庭の外で満たそうとします。それはしばしば異性とつながろうとします。多くの子どもたちはセックスがしたいわけではなく、ただ気にかけてくれる人を必要としているのです。愛情ある人々と一緒にいればいるほど、愛情を身につけることができます。子どもたちに愛情を示すよい方法は、夫婦が互いに愛し合うこと、言葉と身体で愛情を表現することです。

若者と親とが愛情深い絆なしに、禁止と規則を与えるだけなら、さらなる関係の断絶と子どもたちの反抗を生じさせることになるでしょう。子どもたちと一緒に見るテレビ番組や映画の中で、誤った性的場面があったなら、神の正しい見方を伝える機会としましょう。家庭が性についてオープンであればあるほど、子どもたちは性についての情報を得るために家庭の外へ出て行くことが少なくなります。性的プレッシャーに「ノー」と言えるように、親も子どもも理論武装する必要があります。子どもたちが無知であるために犠牲になったり、プレッシャーに直面した時に無防備であったりすることがないように。子どもたちを害悪から守り、よいものを提供しましょう。また、若者に主イエスとの親しい関係を始めるように励ましましょう。

## 失望 (ジョシュ・マクドウェル『断絶世代とつながるために』より)

望みや希望がかなわない時はいつでも失望します。若者が失望しないように守るのではなく、失望に対処できるように準備させる必要があります。

## 失望の原因



- ①物事や経験に関する失望：学校、アルバイト、持ち物、容姿、健康、期待が裏切られる
- ②人間関係に関する失望：別離、引越し、親の離婚、離別、失恋、死別

### 失望のらせん階段

- ①失望は、誰もその感情を肯定せず、愛情深くかかわることをしない場合、未解決のまま残ります。
- ②落胆：解決されない失望は落胆へとつながります。勇気や希望や自信の喪失につながります。
- ③憂鬱：落胆が長引いたり繰り返されると、憂鬱になることがあります。望んでいることは決して実現しないかもしれないという恐れを抱くようになります。
- ④絶望：すべての望みがなくなる時、絶望を経験します。人生に全く望みが無いと感じます。
- ⑤破滅：人生に望みが無いなら、生き続ける必要を感じなくなります。

### 若者の失望への対処

若者を一人で失望に向かわせないようにしましょう。日々の生活で若者たちを失望させるような経験を注意深く見張ります。子どもたちの1日にどんなことがあったのかに耳を傾けることを習慣にします。子どもの感情が落ち込んでいることに気づいたら、時間を気にせずに、彼らの世界に入っていき、適切な応答をし、あなたが愛情をもって心配していることを伝える必要があります。

若者が失望と戦っている時に、私たちがなすべき最も大切な最初の応答は、彼らの感情を肯定してあげることです。失望の原因が本人にあったとしても、その原因に関わらず、あなたが無条件で愛し、受け入れていることを伝えましょう。若者は失敗や失望を経験しても、自分が認められていると知ると、私たちの愛を感じてくれます。重荷を持っている若者を実際の行動で手助けしましょう。もし何かをなくしたのなら、一緒に探すのを手伝ってあげましょう。相談にのりましょう。

愛する者を失った人に対して：そこにいてあげる、感じ取ってあげる、静かにしている。傷ついた若者と感情を共にします。若者が感じている感情を外に出せるように助けます。教訓や励ましは、もっと後になるまで待ちましょう。

### さまざまなアイデア

- ・若者向きの礼拝を企画する。若者は午後からの時間帯が集まりやすい。
- ・複数教会の若者が集まる集会を開く。人数が多く集まると励まされる。
- ・ファミレス、ファストフード店で学校帰りに集まりを持つ。
- ・若者グループのホームページ、ブログ、フェイスブックなどでのつながりをつくる。メッセージのポイント、祈りのリクエスト、イベントの案内などをのせる。
- ・携帯でディナーショー。
- ・ライブハウス、カフェ形式の伝道、ドリンクを飲みながらワーシップライブ
- ・お店にいっしょに食べに行く。
- ・CDや本をプレゼントする。
- ・スポーツ：フットサル、バスケット、ソフトボール、バレーボール

- ・趣味のサークル：温泉、スイーツ、ハイキング、ゲーム、
- ・パーティー：出店、鍋、たこ焼き、バーベキュー
- ・キャンプ

## < 文 献 >

岡田努『現代青年の心理学—若者の心の虚像と実像』世界思想社、2007年。

土井隆義『友だち地獄—「空気を読む」世代のサバイバル』筑摩書房、2008年。

中村恭子、原田曜平『10代のぜんぶ』ポプラ社、2005年。博報堂生活総合研究所に所属する著者たちがまとめた現代の若者の姿。切り口が鋭く、表現がうまい。

ウォルシュ、デイヴィッド著、佐々木千恵訳『10代の子って、なんでこうなの!?!』草思社、2005年。読みやすくて子育てのヒント満載の本。

ウッズ、レン 中嶋典子訳『ホンネで語る！子どものクリスチャンライフ』CS成長センター 1999年。家庭礼拝のために書かれた本。現代的なテーマを多数とりあげてあり、子どもたちの実生活に適用しやすい。お薦め。

ピーターソン、ユージン・H. 著、篠原明訳『若者は朝露のように—思春期の子どもとともに成長する』いのちのことば社、2005年。親子にとって、思春期を神から与えられた信仰の成長の時期ととらえる。愛なる神を強調し、義なる神の面は弱い。各章末の質問がすぐれている。スモールグループテキストにもよい。お薦め。

ピーターソン、ローライン 中嶋典子訳『でも、みんなやっていることだもの… 10代のクリスチャンを育てるライフガイド』CS成長センター 1998年。10代の若者が毎日のデイポーションで用いることができるようにつくられている。全部で13章あり、それぞれの章が7つの話からできている。現代の若者にとっつきやすい文章になっている。

マクドウェル、ジョシュ著、伊藤真澄訳『断絶世代とつながるために—ユースを導くための14章』CS成長センター、2006年。よりよい人間関係を築くために大切なことが書かれている。若者自身と若者の関係者にお薦め。

マックナブ、ビル、スティーブン・メイブリー 中台孝雄訳『創意と工夫 中・高生に聖書を教える』CS成長センター 1993年。きちんとした学習理論に基づいた創造的な聖書の教え方が書かれている。キリスト教教育に携わる者への教科書として用いることもできる。

## 〔著者紹介〕



松原 洋満 (まつばら ひろみつ)

1960年、岐阜県生まれ。筑波大学で心理学専攻。東京基督教短期大学で神学を学ぶ。アメリカ、ゴードン・コンウェル神学大学院(M.A.)、トリニティー国際大学(Ph.D.)で基督教教育を学ぶ。神奈川県川崎市にある日本同盟基督教団登戸教会牧師。2児の父。著書に「楽しい！発見&体験ゲーム」(CS成長センター)、「かがやけ☆クリスチャンキッズ」(日本同盟基督教団教会教育部、共著)、「聖書が教えている家庭生活・社会生活」(日本同盟基督教団教会教育部、共著)、「洗礼を受けた中高生のために」(日本同盟基督教団教会教育部ダウンロード版、共著)がある。エッセイ、メッセージ、教会教育テキストなどを「のぼりと教会」ホームページで公開中。

<http://homepage3.nifty.com/noborito-church/>

---

若者のためのミニストーリー

2012年5月1日 発行

著者 松原洋満

---

©MATSUBARA Hiromitsu 2012